

●竹中正夫「同志社とハワイ」『同志社アメリカ研究』
第三号、一九八六年

●Tasaku Harada, "The Social Status of the Japanese in Hawaii—Some of the Problems Confronting the Second Generation" Institute of Pacific Relations, 2nd Conference, Honolulu, 1927, data paper, 13p.

●Tasaku Harada, "Japanese Character and Christianity—A Study of Japanese Ethical Ideals as Compared with Teaching of Christianity" *Pacific Affairs* 12: 683-698, Nov. 1929

Tasaku Harada, "A Study of text-books on history and geography used in the secondary schools of Japan, Institute of Pacific Relations, 2nd Conference 1927, data paper, 37p.

●原田和敬子編『原田健遺集』昭和四九年
(大学神学部教授)

同志社校地出土の埋蔵文化財⑫

鈴木 重治

泥像仏頭断片(鎌倉時代以前)



同志社中学校体育館地点
Ⅱ区・S.K. 3031 出土
残存高 3.5 ㎝

同志社中学校の体育館地点は、古く相国寺境内の西南部に当たっていた。発掘調査によって確認された南北に長い溝が、築地堀に沿う側溝である。この溝の東側、つまり旧相国寺の境内には大、小の廃棄坑が検出されていて、出土資料によって室町時代、安土・桃山時代などの遺構が区別された。これらの中には、地山を掘り込んだものもあったが、奈良時代の整地層の一部と考えられた土層を掘り込んだものもみられた。

第三遺構検出面で出土したS K 三〇三二もその一つである。

S K 三〇三一からは、奈良時代の須恵器のほか、鎌倉時代の土師器も出土している。相国寺の創建以前のものばかりである。この中に含まれていたのが写真に示した仏頭の断片である。

光背の一部も残す頭部片は、いわゆる泥像であって、型造り後に部分的な彫りやナデ整形によって優美な形態に整えていて、その胎土は、良質の土師質粘土が使用されている。伏見人形などの江戸時代の土人形と違って、型造りであってもキララなどの剝離材を使用しないばかりか、白釉、緑泥、褐釉、赤色顔料などの表面装飾のない素朴な泥像である。豊満な肉付に加え、眉から鼻にかけてのシンメトリカルな弧線、器面が荒れているとはいえ、よく残存している長目の耳などに古い様相をしのばせている。伴出の資料の中には鎌倉時代のものも含まれているが、泥像仏自体は、奈良時代までさかのぼる可能性がある。

(同志社大学校地学術調査委員会調査主任)